

医療・介護・福祉・行政の多職種が連携し合い、住民の方が住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられるよう必要な体制づくりに取り組んでいます。



薩摩郡医師会在宅医療相談支援センターだより

ひまわり



第42号 令和6年8月
編集・発行 薩摩郡医師会在宅医療相談支援センター
TEL(代表) 0996-53-0326(内380)
(直通) 0996-53-4711(FAX兼用)

令和6年度第1回さつまるネット研修会 「高齢者施設における人生会議の進め方」(6/25)



社会医療法人博愛会
相良病院 江口氏



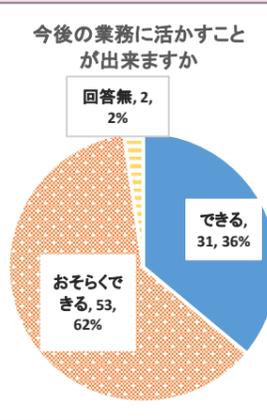
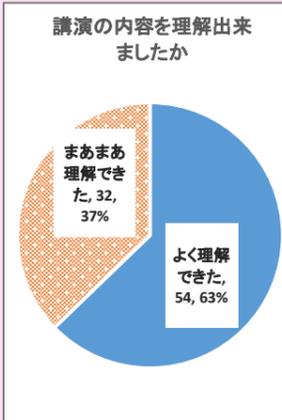
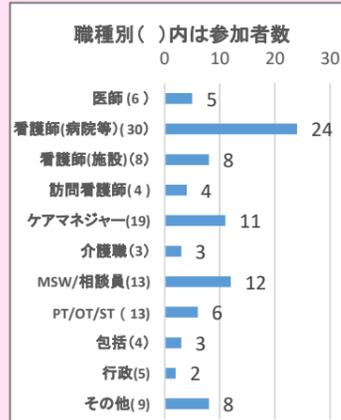
動画の一場面;鹿児島県のホームページでご覧になれます。



令和6年度さつまるネット研修会アンケート結果(R6.6/25)

参加者数:会場 74名 オンライン 40名 合計 114名

アンケート回収数:会場 65名 オンライン 21名 合計 86名(回収率:75.4%)



(ご意見・ご感想(一部ご紹介))

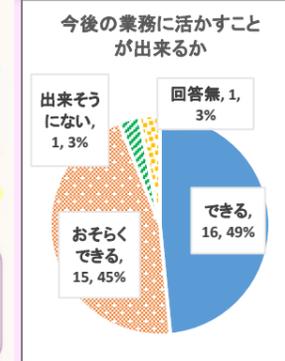
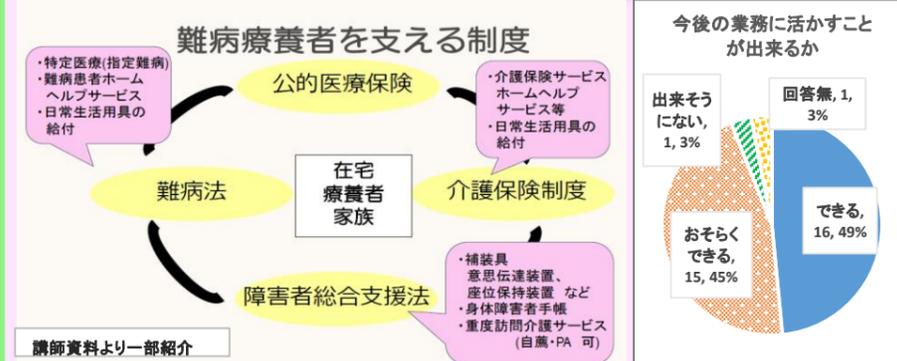
- ・「人生会議」と聞くと、人生における重大な判断をするものをイメージしていましたが、一度きりのものではなく、日常生活の中で、何度も繰り返し本人と話していき、本人の思いのピースをいくつも集めていくことが重要だと分かりました。江口先生のお話がとても分かりやすく、また動画から実際にイメージしやすかったです。ACPIについて理解が深まりました(行政)
- ・認知面が低下している状態の方の相談支援対応が多い中で、日頃の意思決定支援の難しさを業務の中で日々感じています。どうありたいか、どうしていきたいか、認知面・判断力低下しても対話を重ねる事が大事なんだと学ばせて頂きました(包括)
- ・「ご家族と話をして下さい」とお願いする時に「ぜひ、本人の思いも含めて」という促しが足りなかったと思う。本人の思いを知る人の意見が、家族の決定(本人が困難な時)に、妨げになると思っていたが、一つの考えるパーツを思い支えられた思いがした。これからの仕事につつこんで考えたい。代弁者は代弁決定者ではない、その通りでした。とても良い研修でした。今の私にとっても助けになりました(施設ケアマネ)
- ・家族の思いや意向をつい重視しがちだが、とにかく「本人のこれまでの人生を含めたこれからをどう生きていくか、どう過ごしていくか」に重点を置いて、その人の周りにいる人達で意見を出し合い、話し合いを重ねて何よりも本人の思いを大切にしていきたいと思う(介護職)
- ・毎回再確認したいので、年1回以上はACPIについて研修したい(医師)

(他たくさんのご感想を頂きました。有難うございました。)

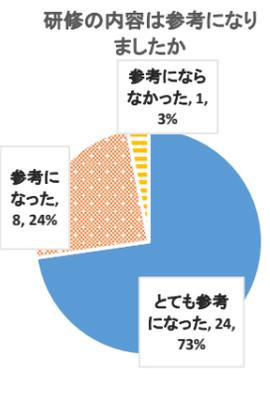
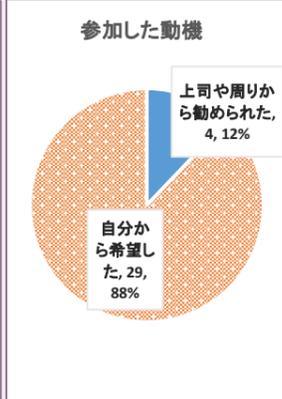
令和6年度第2回さつまるネット研修会 事例に学ぶ 「ALS患者様の自宅への退院支援」(7/24)



びっくすまいる訪問看護ST
管理者:柳田氏
薩摩郡医師会病院:坂口氏



令和6年度さつまるネット研修会アンケート結果(R6.7/24)
参加者数:会場 38名 オンライン 2名 合計 40名
アンケート回収数:会場 33名 オンライン 0名 合計 33名(回収率:82.5%)



(ご意見・ご感想(一部ご紹介))

- ・各地域でのサービスの違い、制度の違いを知りたい。どんな制度があるのか、すぐ知れるガイドライン的なものがあると、スムーズではないかと思う(訪看)
- ・入院時対応のみでの知識であったが、自宅介護の大変さがわかった。皆さんの支えの元に成り立っている。皆で助け合って行ける様になりたい(看護師)
- ・在宅での生活を希望される利用者さんがとても多く、仕事にやりがいを感じています。これからも学びを深めたいと思います。訪問看護の仕事始めて約3ヶ月です。
- ・ALS患者様の家族のことを(不安や感謝される事)を知る事ができた。ALS患者さんや難病の人を在宅介護は難しいと思いました。連携が大事であるなあと感じました。いろんな制度があること、知らない事が多いでした。今日はとても勉強になりました(看護師)
- ・多職種の方それぞれの立場からの生の意見が聞けて勉強になりました。一人の患者様について、色々な方がその方の事を考えて、よりそってケアしていていることに仕事とはいえ素晴らしいことだなあと感じました(管理栄養士)
- ・久々のグループワークで意見交換できてよかった。災害時の対応は場面の想定が多く、難しい。医療的ケアがある方の行き場に困る。訪看としての災害時対応の情報交換を行い、対応できるように考えていきたいと思ひます(訪看)

歯科医師から考えるALS患者さんへの対応

ALSの患者さんは筋力の低下がみられる疾患でありどの部位から症状が進行するのには個人差が大きいのですが、どの方も通る悩み事として挙げられるのが、嚥下機能の低下により唾液の処理が困難になる事です。しかも不思議と唾液の分泌量は多く、それが24時間の吸引を余儀なくされる原因ともなり誤嚥性肺炎にもつながります。このため早期から口腔機能の低下にも目を向け、少しでも長く嚥下や咀嚼機能の維持を図ることが重要だと考えています。摂食できる時期からの舌や口輪筋などの機能訓練、たとえ摂食出来なくても唾液の嚥下の機能は維持できるように、身体のリハビリと同様に口腔にも働きかけていく必要があります。

全身の症状に目が行きがちなALS、ご本人やご家族でも口腔に関する予後は具体的に想像しにくいこともあり、歯科への連携が必要と気付くケースが少ないと言えます。食べられなくなるというイメージはあっても、嚥下する機能が低下していることで唾液の嚥下ができず大変な思いをすることになるというイメージは湧きにくいものです。早期にその必要性を伝え簡単なリハビリを実施していただくことで、少しでも長く口から味わい、会話を楽しみ、表情の表出が可能となるのです。

精神的にきつい思いを抱えていらっしゃるALSの方々にとっての小さな喜びを維持する支援。歩けない動けない喋れない呼吸すら厳しい、でも味わったり会話ができる環境を限界はありますが、少しでも長く継続できるよう整えたいと思っています。(文責 尾形文隆)



令和6年度第1回薩摩郡医師会在宅医療推進作業部会(5/14)



令和6年5月14日(火)薩摩郡医師会病院に於いて新任1名、後任2名を含む委員 25名の出席で開催されました。議題として令和6年度在宅医療推進体制として課題別作業班を川内市医師会と同じくACP班、摂食嚥下・口腔ケア班、医療介護連携班とし、委員へアンケート調査を行い、班構成を行うこととなりました。

令和6年度第2回薩摩郡医師会在宅医療推進作業部会(8/21)



令和6年8月21日(水)薩摩郡医師会病院に於いて新任1名の方に加わって頂き、委員 25名の出席で開催されました。今回は、班別に分かれ、それぞれのテーマ毎の課題等についてグループディスカッションして頂きました。テーマは①職場や職種として感じている課題②看取り③災害対策④摂食嚥下⑤口腔ケアについて活発に意見交換されました。

事業所別看取り実施率 令和6年度高齢者施設および障害者施設における看取り等調査結果(薩摩郡医師会圏域)

()内はR6年度施設数	看取りをしている			看取りをしていない			事業所別看取り実施率		
	R2	R4	R6	R2	R4	R6	R2	R4	R6
特養(13)	12	11	12	1	2	1	92%	85%	92%
老健(4)	1	2	2	3	2	2	25%	50%	50%
介護医療院(1)	1	1	1	0	0	0	100%	100%	100%
GH(13)	6	7	7	8	7	6	43%	50%	54%
有料(0)	0	0	0	2	2	0	0%	0%	0%
サ高住(1)	0	0	1	1	1	0	0%	0%	0%
小多機(6)	1	2	3	6	5	3	14%	29%	50%
軽費(1)	0	0	0	1	1	1	0%	0%	0%
養護(3)	0	0	0	3	3	3	0%	0%	0%
生支ハ(2)	0	0	0	2	2	2	0%	0%	0%
障害者施設(3)	0	0	0	3	3	3	0%	0%	0%
全体	21	23	26	30	28	21	41%	45%	55%

